

県内の関連作品



武雄温泉楼門は、武雄温泉組(現・武雄温泉株式会社)が辰野金吾に設計を依頼し、1915(大正4)年に完成した。朱塗りの楼門は竜宮城を連想させる天平式楼門と呼ばれ、釣銭は1本も使っていない。

2005年に国重要文化財に指定。13年には保存修理により建造当時の朱色が復元された。2階天井の四隅には子(ねずみ)、卯(うさぎ)、午(うま)、酉(とり)の彫りがあり、東京駅丸のレリーフにある巳(へび)、辰(たつ)などの8つと合わせると十六支になるため辰野の遊び心はよく言われている。

来年3月末まで、観光ガイドによる「楼門干支見学会」(有料)が開かれている。武雄温泉株式会社の田中隆一郎社長(69)は「来年は完成から110年にあたる。唐津赤レンガの会とも連携したイベントを企画したい」と話している。



唐津市本町にある「旧唐津銀行」は、辰野の弟子の田中実が設計し、1912(明治45)年に完成した。ふるさと唐津に辰野が設計した建築は現存せず、辰野が監修した「辰野式」が色濃く残るこの建築は、辰野金吾記念館の別称もある。

建築面積は約315平方メートル。赤レンガ造りで地上2階、地下1階。外壁は赤レンガ調のタイルと白い石で化粧している。97年まで現役の銀行で使われ、市に譲渡後に保存整備工事を経て2011年に公開。18年に県重要文化財に指定された。

辰野や旧唐津銀行に関わる展示物がある。新1万円札に東京駅の図柄が採用された関係で、日本銀行が唐津市に寄贈した記念券(76)は「市民はもっと辰野金吾に誇りを持ってほしい」と語る。

武雄温泉楼門

〔国重要文化財〕

武雄市武雄町

旧唐津銀行

〔県重要文化財〕

唐津市本町

現存する「辰野作品」と関連施設の主要一覧



日本銀行本店

〔重要文化財〕

東京都日本橋区

※写真提供=日本銀行

——日本建築界について
の辰野金吾とは——

建築家としてだけではなく、教育者として非常に大きな影響力を持った。われわれのルーツをたどればほとんど辰野に行き着くところが、えがくがほとんどがいる。国内でいわゆる建築家としての職業は明治以前ではなく、建築が設計も施工も、括してやつてのことを見ると辰野がヨーロッパから学んだシステ

ムを取り入れ、設計者と施工者を分業化していく。建築界自体をリードし、育てていくことに尽力して、現在の日本建築学会に当たる造家学会も設立した。近代日本における建築の存在や役割を位置付けた。

——辰野金吾は人材を育てた点が非常に大きい。われわれのルーツをたどればほとんど辰野に行き着くところが、えがくがほとんどがいる。国内でいわゆる建築家としての職業は明治以前ではなく、建築が設計

も施工も、括してやつてのことを見ると辰野がヨーロッパから学んだシステ

ムを取り入れ、設計者と施工者を分業化していく。建築界自体をリードし、育てていくことに尽力して、現在の日本建築学会に当たる造家学会も設立した。近代日本における建築の存在や役割を位置付けた。

——辰野金吾は人材を育てた点が非常に大きい。われわれのルーツをたどればほとんど辰野に行き着くところが、えがくがほとんどがいる。国内でいわゆる建築家としての職業は明治以前ではなく、建築が設計

西洋建築から和風建築まで、明治から大正にかけて幅広い作品を残した辰野金吾。「JR東日本在職中に東京駅丸の内駅舎の『保存・復原』に携わり、現在は工学院大学建築学部建築デザイン学科教授として、建築史などを専門とする大内田史郎氏が辰野の功績や作品が持つ魅力について聞いた。」

——日本建築界について
の辰野金吾とは——

日本人による近代化を担う
教育者としての功績も

140th

佐賀新聞
創刊140周年
記念特集文
獻や逸話
を調べる——辰野駅丸の内駅舎で
苦労した点は。辰野駅丸の内駅舎で
苦労した点は。

辰野駅丸の内